

小規模多機能型居宅介護事業所コムーネ黒髪
【平成30年度 サービス評価総括表】

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護事業所 コムーネ黒髪サービス評価 総括表

法人名	社会福祉法人 リデルライトホーム	代表者	理事長 小笠原嘉祐	法人・ 事業所 の特徴	熊本市中央区に開設。事業所のある黒髪校区は園児から大学生まで文教地区であり世代間交流が図りやすい。自治会活動も盛んで事業所と自治会の交流が盛んである。利用者の皆様も住まいの地域だけではなく事業所のある黒髪校区第4町内の地域住民との交流も盛んである。
事業所名	コムーネ黒髪	管理者	松永佳子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0	2人	2人	人	1人	1人	1人	3人	人	10

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	評価の反省や振り返り等、年間を通して具体的に取る。	自己評価を行った直後は取り組んでいたが、年間を通じて具体的に取組んでいなかった。	日々、利用者さんの介護で忙しい中、良くできていると思う。事業所の自己評価をスタッフ全員で取組み、分析し、改善に取り組んでいると思う。良く心得て取り組んでいる	評価の反省や振り返りを日々の運営に活かせるように年間を通じて具体的に取る。
B. 事業所のしつらえ・環境	基本的に日中の施錠は行わないが、夜間や早朝のスタッフが一人の場合は防犯の為施錠を行う。排泄物などの不快な臭いを残さないように、汚物は事業所内に置かない、トイレの汚れはその都度清掃する。	訪問等で(スタッフ数が少ない場合等)やむをえない場合を除いては施錠を行わなかったが時間が長くなる事があった。臭いや音、温度湿度等不快につながる事に清掃などを行い配慮した。	配慮が届いている。認知症の方や地域の方も過ごしやすい空間になっている。危険が無いように工夫されている。臭いは環境に於いてとても重視すべき点だと考えます。	老朽化が見られる個所を点検し補修を行う。行事以外のボランティアの導入。鍵をかけないケアを目指す。やむをえない場合は必要最低限、短時間とする。
C. 事業所と地域のかかわり	困り事や相談事を受けた場合、コムーネ黒髪で解決できないことは簡単に断るのではなく、協力していただけるところを相談、依頼する。これまで築いた地域との関係を継続する為に、新たなスタッフも地域活動に参加する	新たに配属されたスタッフもすべてに行事ではないが、参加することができた。	様々な行事に参加して地域に溶け込んでいると思う。地域住民との関わりが多く、馴染むことができていると思う。積極的に地域との関わりを持ち活動へ参加、支援へ活かしていると思います。ぜひサロンの見学に来てください。	開設当初から継続している地域行事の参加ができなかったものがあった。回覧板等で確認し、利用者のできる力に応じた地域行事に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の方の新たな地域資源を探し、かかわることができないか自治会長様、担当民生委員さんに相談する。	熊本大学特別支援学校のカフェに出向き学生との交流、外でお茶を飲むなど、これまで行っていた生活を実現できた。	地域住民側の意識も変化していき必要もあるかと思えます。地域とのつながりは今まで築き上げられていて、つながりも深い。その関係が暮らしを支えることへ結びついていると思う。	地域ケア会議等に参加し、会議の内容を参考に見逃している利用者の課題が無いかを検証する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>コムーネ黒髪の問題だけではなく、地域における課題も取り上げ、解決に向け話し合える場にする</p>	<p>会議内で、委員の皆様から地域の状況等の情報提供をいただき地域のことを知る事ができた。</p>	<p>委員の皆さんが積極的に発言されている。率直な意見が聞けている。会議の中でサービス内容が具体的にわかる。地域の方々からの質問にもある程度答える事ができている。</p>	<p>現在、運営推進会議の内容が行事報告や実績報告が主となってきている。次年度は事例検討の時間を設けたい。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>防災について地域住民と共有できるように、自治会へ防災訓練の協力、参加を依頼する。</p>	<p>自施設の訓練への参加協力依頼、実施ができた。しかし、地域の防災の協力はできなかった。</p>	<p>防災、災害訓練では大声を出してテキパキされている。 深夜帯は自治会長や自主防災クラブ会長宅に連絡してほしい。 地域住民の防災意識が高く防災については積極的な関わりが行われていると思います。</p>	<p>黒髪4町内自治会の協力のもと年2回防災訓練を継続する。 ラインを活用した緊急連絡訓練を行う。</p>

